

26年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 5月20日～ 26年6月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/6月	7月	8月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 26.9	△ 34.6	△ 34.6
	マツ	△ 16.7	△ 20.8	△ 16.7
	広葉樹	△ 10.0	△ 20.0	△ 23.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 8.3	0.0
	マツ	4.5	△ 22.7	△ 4.5
	広葉樹	△ 3.3	△ 3.3	△ 3.3
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 11.5	△ 23.1	△ 26.9
	マツ	△ 16.7	△ 12.5	△ 20.8
	広葉樹	△ 40.6	△ 31.3	△ 37.5

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹原木の入荷はいずれも、減少傾向で推移。
スギ・ヒノキ原木の消費は6,7月の減少が8月は横ばいに、マツは6月の微増が7,8月にはやや減少に、広葉樹は微減で推移。
スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹原木の在庫はいずれも減少傾向で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ	7.7	3.8	3.8
マツ類	8.3	4.2	4.2
広葉樹	10.0	0.0	3.3

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹原木価格は、いずれもわずかに強保合ないし保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・スギ・ヒノキ原木は労働者減少、伐採時期悪くなり出材減が見込まれる。マツはほとんど出材なし。広葉樹専属業者がおらず、自伐業者、支障木の入荷で変動なし。為替の影響で製紙会社チップ使用量増加し針葉樹及び広葉樹とも消費量増加。入荷減、消費増で在庫減少。・5月末から国有林の請負生産始まり、広葉樹の入荷減心配。在庫減少進み、在庫を見ながらの生産。・5,6月にかけて天候に恵まれ順調に入荷したが、梅雨に入り入荷減が心配。在庫はスギ3.0カ月、マツ3.5カ月及び広葉樹3.0カ月。・スギは生産に伴った仕入れ、注文に応じた生産、広葉樹は生産計画に伴う仕入れ、仕入れ状況見ながらの生産。・いずれの樹種も仕入れ、消費は良好、在庫は横ばい。・スギ仕入は入荷減少、バイオマス向けの集材によること、8月はお盆で山関係の現場作業の休みが長いこと、暑い日が続く出材能率が下がるため。製紙工場が定期修理のため6月5日からチップ受入停止、新聞紙用のマツチップのみ受入れ。・消費は、製紙工場の長期の点検で減になると思ったが数量的には余り減にならず。・スギ、ヒノキの間伐材入荷が、5月増加、6月も前月並、伐採が減り用材運搬のトラックが空いてきてチップ材が運んでもらえるため7月から少し落ち着く。消費は高水準での横ばい、在庫はスギ、ヒノキで間伐材の発電用は積み増し、製紙用は少しずつ減少。広葉樹は減少、増加したり。

・梅雨のためやや落ち込む。・針葉樹原木は中国向け輸出、FIT発電用に流れ入荷量減少、製紙会社に値上げ要請しているが動き鈍い。製紙会社定期修理で針葉樹チップ生産減少。針葉樹原木は入荷減で在庫減、針葉樹原木は横ばい。

(原木価格) ・いずれの原木も価格変動なし。・広葉樹買い入れ価格の低迷により山元は元気ない。
・何れの樹種も価格変わらず。・いずれの樹種も変動なし。・変わらず。
・スギ、ヒノキの間伐材と一般材との価格差は大きい、広葉樹は変化なし。
・売価変化ないため、購入価格変化なし。
・針葉樹原木はFITの増集荷、製紙会社の針葉樹チップ増集荷、中国バイヤーによる買い付け等で原木価格上昇。

26年6月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 4.2
	マツ類	4.5	△ 18.2	4.5
	広葉樹	△ 10.0	△ 13.3	△ 16.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 19.2	△ 7.7	△ 3.8
	マツ類	4.2	△ 16.7	0.0
	広葉樹	△ 6.3	△ 12.5	△ 15.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 22.7	△ 13.6	△ 27.3
	マツ類	△ 10.0	△ 5.0	△ 20.0
	広葉樹	△ 37.5	△ 29.2	△ 37.5

スギ・ヒノキ及び広葉樹チップの生産は減少ないし微減で推移、マツは6月の微増が7月の減少を経て8月には微増に。

スギ・ヒノキチップの出荷は6月の減少が8月に向け微減に、マツは6月の微増が7月の微減を経て8月には横ばいに、広葉樹は減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの在庫はいずれも減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	26/6月	7月	8月
スギ・ヒノキ類	4.2	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキチップ出荷価格は6月のやや強保合が7,8月には保合に、マツ及び広葉樹は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き) ・生産・出荷量は製紙用チップ増加、ボード用チップ横ばい、燃料用横ばい。在庫は入荷減で減少。・土場在庫の減少に伴い広葉樹チップ減産の見通し。・スギは注文に応じた生産、注文に対する生産、広葉樹は原木入荷量による生産、取引先の計画数量による出荷。・いずれの樹種も生産、出荷及び在庫とも変動なし。・生産は製紙工場の長期点検があったが数量的には余り減にならず、出荷も同じ。・製紙用は針葉樹、広葉樹ともにフル稼働生産、出荷、FIT用は価格折合わず4月より見送り。・入荷不足のため生産、出荷、在庫は減少する。・針葉樹チップ・ピンチップは6月の製紙会社定期修理で用量減少し、集荷状況も一服感。燃料用も同様に定期修理のため用量減少、出荷量大幅制限で受け入れ制限。出荷先には木くず処理業者もある。ピンチップ、燃料チップの在庫は出荷減のため大幅増加。

(木材チップ価格) ・スギ・ヒノキは一部製紙会社で単価値上がりがあった。

- ・現在の広葉樹チップ価格では希望数量に届かない。更なる値上げ望む。
- ・何れの樹種も価格変わらず。
- ・4月から広葉樹チップ価格やや上昇するも他は横ばい。
- ・変わらず。
- ・変化なし。
- ・変化なし。
- ・針葉樹原木が値上げしておりチップも値上り要請しているが動き鈍い。広葉樹は横ばい。